



東京都議会議員 自由民主党 (港区選出)

かんの弘一 活動レポート

かんの弘一都議会レポート
平成28年(2016年)10月発行

菅野弘一事務所
東京都港区白金台3-17-4
TEL: 03(3445)8211
FAX: 03(3445)5155

編集・発行 菅野弘一事務所

かんの弘一 活動 Topics 日頃の活動を写真にて報告いたします



10/17
地元の老人クラブ勉強会で講演
老人クラブの勉強会にて街づくりや東京五輪、マイナンバー制度について講演。



10/19
同期議員の勉強会にて管内視察
案内役となり高潮第二センター、東京港、品川新駅と再開発計画地などを視察。



10/26
公営企業会計決算特別委員会にて質疑
豪雨・浸水対策、品川シーテラス・芝浦水再生センターの機能や効果等を質問。



10/29
利根川上流ダム水源地視察
この夏も水不足が課題となった東京都の水源地確保と治水対策のためダムを視察。



11/20
決算特別委員会にて意見開陳
公営企業各会計の決算に対して都議会自民党を代表して意見開陳を行いました。



12/9
第四回定例会にて一般質問
水辺空間の観光振興、食の安全、都営青山北町アパート建て替え等を質問(裏面参照)



12/10
東京都議会 本議場をご案内
都庁見学にいらしゃった皆さんに委員会室や都議会本会議場を案内しご説明。



2016
1/5
明治学院大学にて特別講義
明治学院大学の学生さんを前に「都区制度」の在り方について講義しました。



2/20
港区老人クラブ連合会にて講演
10月の講演がご縁で港区老人クラブ連合会の勉強会にて都政について講演いたしました。



3/8
予算特別委員会にて総括質疑
老朽マンション再生促進、海上公園の緑化、中小企業の成長支援等について質問。



4/21
都議会防災都市づくり推進議員連盟
超党派で災害に強い街づくりに取り組んでまいります。(写真は被災地支援募金活動)



8/2
都議会自民党 政調会副会長に就任
9月にはオリンピックバトンピック等推進対策特別委員、環境・建設委員会 副委員長就任。

東京2020大会に向かって

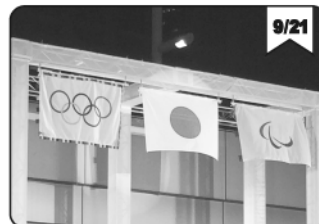
リオ・デジャネイロ大会も閉幕し、いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての動きが本格化します。9月14日に「オリンピック・パラリンピック等推進対策特別委員」を拝命し、ますます東京都のスポーツ振興に取り組んでまいります。



4/24
マラソン大会でスターター挑戦
第一回 みなと・港南ファミリーロードレースにてスターターをつとめました。



5/3
東京都なぎなた大会に出席
大会副会長、港区なぎなた連盟 会長をつとめています。熱気あふれる大会でした。



9/21
オリンピックパラリンピックフラッグ掲揚式
リオから到着した五輪旗を掲揚するイベントに推進対策特別委員として参加。



9/24
デストロイヤー杯 港区スリング大会
子供たちの健全な育育を目指して行われている大会。写真はザデストロイヤーさんと。

※ 紙面の都合でご紹介できませんでしたが、この他にも、軟式野球、フェンシング、ラグビー、水泳、柔道、空手、スポーツ吹矢等の競技を応援しております。

facebookにてより詳細な活動報告をしています！ <https://www.facebook.com/kanno55>

1.環境に配慮した都市づくりについて

- 都市づくりにおいて活発な経済活動と環境負荷低減の両立は不可欠だが、品川駅周辺のまちづくりをはじめとする大規模な都市開発を進める上での都の環境負荷低減のとりくみについて見解を伺う。

経済発展の中心的な役割はもとより、最先端の環境技術の活用や、環境改善につながる道路ネットワークの形成を推進し、成熟社会の都市モデルとして世界に発信する。

2.都営青山北町アパートの建てかえについて

- 現状、低層の団地である都営青山北町アパートの建てかえについて、高層化・集約化して最大限用地を生み出し、地域特性に合わせたにぎわいのあるまちづくりを行っていく必要があると考えるが、どのように建てかえるのか。

敷地南西側に住宅を集約、高層化し、オリンピック・パラリンピック大会までの完成を目指す。建物の低層部には、児童館や保育所を併設するとともに、周辺エリアに開かれ、地域の防災性を高める、まとまりのある緑地や広場も確保。青山通り沿道の民有地との一体的なまちづくり等を推進し、にぎわい、文化、緑をつなぐ最先端の文化、流行の発信拠点を形成していく。

3.水辺空間を生かした観光振興について

- 私の住む港区には芝浦や港南地区に様々な運河があり、水上交通のルートを整備することで舟運による観光を活発にできるとの印象がある。このような東京の水辺空間を活用したにぎわいの創出、観光の活性化について、地域とも協力して効果の高い施策を展開すべきと考えるが、所見を伺う。

東京の旅行地としての魅力向上を図るには、水辺空間の集客力を高め、観光振興の効果的な展開に結び付けることが重要。具体的な状況に詳しく意欲をもつ地元と連携し、旅行者の誘致に向け、ハードとソフトの両面から支援について検討していく。

4.国際会議の誘致について

- 国際会議の誘致を効果的に展開し、東京での開催をひやすために、どのように対応を進めていくのか見解を伺う。

従来の助成の他、大規模な国際会議について誘致や開催にかかる負担軽減支援の充実、中小規模国際会議の誘致に向けたPRや開催時の会場確保等の支援を行い、国際的な競争力を高め観光振興施策の充実を進める。

5.海上公園について

- 時代とともに求められる役割が変化してきた海上公園のあり方について、東京都の現在の検討状況と今後の取り組みについて伺う。

学識経験者を含めた専門家によって環境や防災、観光や歴史文化、2020年東京大会への対応などの視点から海上公園の今後のあり方が検討されており、その後都民などから広く意見を伺った上で最終答申を受け、都はそれをもとに新たな時代に対応した海上公園のあり方をビジョンとして取りまとめる。

- 臨海部観光の活性化への新たな観光資源として期待される水陸両用バスについて、お台場でも水陸両用車の運航に必要な河川や海に出入りするための「スロープ」整備に取り組むべきと考えるが都の見解を伺う。

現在お台場海浜公園ではスロープや動線について設計を進めており、平成28年度末までにスロープを竣工させる。

6.食の安全について

- 東京の魅力を高めるためには食の安全をしっかりと確保することが重要だが、都民はもちろん、世界各国からの旅行者に東京の食の安全・安心を実感してもらうためにはどう取り組むのか、伺う。

「東京都食品安全推進計画」を改定。国際基準を見据えた事業者による安全確保、監視指導等に基づく安全対策、世界への情報発信の三つを施策の柱に、食中毒などに対する健康危機管理体制の整備など十一の重点施策を盛りこんだ。外国人観光客に対しては飲食店での多言語対応を進めるなど、施策を一層推進し、情報を発信していく。

- 事業者が行う自主的な食品の衛生管理について、中小規模の事業者から導入へのハードルが高いとの声があるHACCP*1システムを普及させるために、都はどのように支援を行うのか伺う。

特別区等と連携し、事業者への周知や助言等を行うほか、都独自の自主管理認証制度を設け、衛生管理マニュアル作成セミナーや実地講習会を開催するなど事業者を支援する。

*1 HACCP…HACCP(ハサップ)は、食品の原材料の受け入れから出荷までの各工程ごとに、危害の発生防止につながる重要なポイントを継続的に監視、記録し、安全を確保するシステム。国際的に推奨されている衛生管理手法である。